

「若い臨床医のための 診療ガイダンス」

新潟県医師会 編集

各病院で新人の研修医を迎え、入門のカリキュラムが始まったころ、この時期に活用したくなるような本が出版された。新潟県医師会によるこの本は、簡潔でポイントをついた臨床医の心得集であり、臨床医にとって最も重要な基本的姿勢、心構え、実践的かつ具体的なアドバイスが述べられている。

初めに、今日の医療が組織的集団的な実践であるという認識に立って、先輩や同僚医師、看護婦などメディカルスタッフとの良好な協力関係をつくることの大切さを述べている。私たちの病院でも、新人医師に院内すべての職場を回って見学・手伝いをさせるようにしている。相手の仕事や発想・行動様式を理解することなしに、良いチームワークを組めるわけがないのである。

次に、入院と外来での診察のポイントが述べられる。ここでも患者や家族の心理の理解、インフォームド・コンセントを前提に彼らの協力を得

ることの重要性を指摘している。「症状だけでなく、その心理的、社会的背景までも読み取る訓練」、「多くの個性に触れることを通して自らの感受性を豊かにし、患者の不安に人間的共感を持つことが習慣となって、意識されなくてもできるまでに自らを訓練し」といった名言がある。臨床医である以上、一生を賭けた事業の挫折に直面した零細業者の無念さや、小さい子供を残して死ぬ主婦の苦悩、見捨てられた老人の寂しさなどを理解する人間的なキャパシティーが要求される。若手の医師といえども例外ではない。未熟さを自覚し、一人ひとりの患者から謙虚に学ぶ姿勢が最も重要であることを著者たちは強調している。診察、検査、薬の処方、食事の指示や伝票の書き方などについても具体的なアドバイスがある。

後半では、わめき暴れる非協力的患者に、また、患者の急変や医療事故といった突発的事態に、どんな心

構えでどう対応するのか、医事紛争、患者の死亡をどう扱うか、ターミナルケアの重要性などが述べられる。いずれも今日の臨床で最も重要なテーマであり、経験の少ない医師がとまどい悩む切実な課題である。続いて、病院の運営にかかわる各部門の約束事項に触れ、最後に保険診療取り扱いに関するワンポイント・アドバイスが付いている。

こう見てくると、臨床医に必要な、自然科学的知識や技術以外の分野の様々な問題を包括的に取り上げていることがわかる。小さな本に、本当に大事なエッセンスだけが詰め込まれている。「このへんが若い医師の間違いやすい勘どころだな」というポイントをきちんと押さえて、随所に適切な具体的なアドバイスがある。著者たちが、地域病院の現場で、熱意をもって若手の研修指導に当たってこられた豊富な経験から生み出された貴重な成果である。研修医、指導医のための最良のテキストとして推薦したい。

(みさと健和病院院長)
三浦 聡雄

●A 5 116頁 1991年
定価 1,236円(税込) 送料 300円

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)